

平成 18 年度事業報告

1 会員状況

1.1 法人会員および団体会員

級 種	平成 18 年度末	平成 17 年度末	増 減
1 級	12 社	12 社	0 社
2 級	6 社	6 社	0 社
3 級	18 社	18 社	0 社
4 級	35 社	36 社	- 1 社
5 級	84 社	82 社	+ 2 社
計	155 社	154 社	+ 1 社

1.2 個人会員

種 別	平成 18 年度末	平成 17 年度末	増 減
普通会員	1523 名	1555 名	- 32 名
学生会員	135 名	89 名	+ 46 名
計	1658 名	1644 名	+ 14 名

1.3 名誉会員 (13 名)

阿河 利男 阿部 芳郎 大城 芳樹 荻野 圭三 北原 文雄 櫻井 洸 佐々木恒孝
高木 徹 常盤 文克 橋本哲太郎 早野 茂夫 森 昭 渡辺昭一郎

1.4 会員数の推移 (個人・法人)

2 会務

2.1 総会

第 52 回通常総会を，平成 18 年 3 月 31 日，油脂工業会館で開催した。委任状出席を含めて 106 名の代議員の出席を得て議案を審議した。17 年度事業報告および収支報告，18 年度事業計画および平成 18 年度役員を選任等が審議され，いずれも原案通り承認・可決された。

ひきつづき，表彰式が行われ，つぎの各氏が表彰された。

日本油化学会功績賞 元国立女子大学 永山 升三 氏
元東京大学 熊野 裕 従 氏

平成 17 年度日本油化学会賞および進歩賞が次の各氏に贈呈された。

- ・学会賞 北海道大学大学院水産科学研究院 宮下 和夫 氏
- ・学会賞 東京海洋大学海洋学部 和田 俊 氏
- ・工業技術賞 日本油脂株式会社油化研究所 嶋田 昌彦 氏
- ・進歩賞 東京理科大学工学部 近藤 行成 氏

つづいて，講演（演題：油脂マーケットの変化と今後の展望 幸書房(株)社長 桑野知章氏）が行われ，総会に関するすべての行事が終了した。懇親会はルビーホールで開催され，60 余名が出席した。

2.2 理事会

定例理事会は 5 回開催し，平成 17 年度一般会計・特別会計決算案および平成 18 年度同予算案，平成 18 年度会長，副会長および常務理事の選任，運営委員，各業務委員長，各専門部会長，各支部長等の選任，日本油化学会功績賞および日本油化学会賞等の選考，平成 19 年度年会開催地の決定および実行委員長等の選任等，重要案件について審議し，決定した。

出席理事 延 78 名，委任状提出理事 延 14 名，出席監事 延 4 名

2.3 運営委員会および業務委員会等開催状況

運営委員会 6 回，運営会議 1 回，名誉会員・元会長との運営懇談会 1 回，支部長連絡会 2 回をそれぞれ開催した。なお，各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務委員会	2 回	規格試験法委員会(含小委員会)	10 回
定款細則改訂委員会	3 回	役員等候補者推薦委員会	1 回
財務委員会	1 回	学会賞選考委員会	2 回
企画・部会統括委員会	4 回	功績賞推薦委員会	1 回
企画・部会統括委員会全体会議	2 回	JM2007 実行委員会(国際交流)	1 回
編集委員会(含 JOS 編集委)	7 回	若手の会委員会	2 回

総務委員会は，寄付金受納に伴う措置，会員の行動規範・行動規準等について検討した。定款・細則改訂委員会は，諸規定の改定および会員の行動規範の制定等の検討を行った。ホームページ委員会は，本会の広報と会員への情報提供としてのホームページを目指した。企画・部会統括委員会は，オレオナノサイエンス部会の立ち上げと専門部会活動の推進，本部事業およびオレオサイエンスフォーラムを企画・実施した。財務委員会は健全財政基盤の確立に努力した。編集委員会(JOS)は，誌面の変更，紙質・活字の変更，Online の無料化等について見直しを行い，平成 19 年 1 月号から実施した。規格試験法委員会は，トランス酸の新分析法を確立して年会で発表したほか，基準油脂分析試験法の英文化を推進した。また，基準油脂分析試験法セミナーを行ったが毎年開催が定着したように思われる。

3 事業報告

3.1 本部事業報告

本部主催のセミナーは、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、つぎの5件を行った。フレッシュマンセミナー(油脂)、フレッシュマンセミナー(界面)、基準油脂分析試験法セミナー、界面活性剤評価・試験法セミナー、オレオサイエンスフォーラム。フレッシュマンセミナーのテキストには2005年4月に刊行した日本油化学会の編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用」および「界面と界面活性剤」を使用した。参加者数は延396名であった。

3.2 支部活動報告

(1) 支部委員会等の開催

- ・関東支部 常任幹事会3, 幹事会1
- ・東海支部 常任幹事会3, 支部合同役員会1, 支部将来計画委員会1
- ・関西支部 常任幹事会5, 幹事会3

(2) 支部による講演会, セミナー等の行事開催

支部による講演会, セミナー, 交流会等の行事は, 延14回開催し, 参加者数は延827名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延40名であった。

- ・関東支部 開催回数 4回 参加者数 279名
- ・東海支部 開催回数 3回 参加者数 157名
- ・関西支部 開催回数 7回 参加者数 391名

3.3 専門部会, 若手の会, マスターズクラブ活動報告

講演会, セミナー, 談話会等の行事は, 延27回開催し, 参加者数は延991名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延50名であった。

- ・専門部会 開催回数 19回 参加者数 779名
- ・若手の会 開催回数 2回 参加者数 73名
- ・マスターズクラブ 開催回数 6回 参加者数 139名

3.4 日本油化学会誌発行状況

(1) 「Journal of Oleo Science」誌 第55巻 第1号~12号 総ページ数 760ページ

原著論文主体の論文誌として発行しており, 2006年の英文化率は91%であった。電子版は, 4月よりグーグル検索に登録された結果, 各月のアクセス件数が従来の約350件から約5,000余件に飛躍的に増加した。巻末の図を参照。

掲載内容	報文・ノート・速報	英文	50件	385ページ
	報文・ノート・速報	邦文	7件	51ページ
	総説	英文	9件	110ページ

(2) 「オレオサイエンス」誌 第6巻 第1号~12号 総ページ数 1040ページ

学術的啓発と情報を中心とした会員向けの情報誌として発行した。

掲載内容	総合論文・総説・入門講座	30件	265ページ
	研究文献抄録	271件	54ページ
	国際油脂情報	204件	67ページ
	会務・会告		284ページ
	オイルコーナー	29件	76ページ

3.5 第 45 回日本油化学会年会

関東支部の協力のもとに、阿部正彦実行委員長を中心に実行委員会を組織して、準備、開催した。本年会は、昨年ひきつづき会期 3 日間で開催した。本年会は、海外からの 3 名の研究者による講演を含めて 6 件の特別講演があったこと、会期中にチュラルロンコーン大学、チェンマイ大学等のタイ国大学とのジョイントシンポジウムが開催されたことが特色である。一般講演、受賞講演等講演の合計が 284 件に及び、また、参加者は 643 名であり、平常年として過去の最高を記録した。専門部会主催のランチョンシンポジウムは 2 日間の開催としたことで多くの参加者を得ることができた。実行委員会は第 4 回ヤングフェロー賞に菊澤 明、都築 毅、鷺坂 将伸の 3 氏を選考し、エディター賞およびオレオサイエンス賞等の受賞者ととも懇親会において表彰した。

期 日 : 平成 18 年 9 月 8 日(金) - 10 日(日)

会 場 : 東京理科大学野田キャンパス

内 容 :

参加者総数	643 名
講演件数	284 件
・特別講演	3 件
・外国人による Plenary Lecture	3 件
・受賞講演	4 件
・タイ・ジョイントシンポジウム	11 件
・一般講演(口頭発表)	150 件
(ポスター発表)	93 件
・専門部会ランチョンシンポジウム	12 件
・若手の会講演	2 件
・油脂工業会館油脂優秀論文賞受賞講演	6 件

懇親会日時: 9 月 10 日(日) 18 時 - 20 時

会 場: 野田キャンパスカナル会館

参加者: 233 名(招待者を含む)

第 15 回 JOCS オイルカップスポーツ大会: 9 月 10 日(日)

・エクスカーション(キッコーマン株式会社)	参加者 10 名
・テニス 野田キャンパス内テニスコート	参加者 10 名
・ボウリング Bow 1373 柏店ボウリング場	参加者 27 名
企業展示	20 社

3.6 JOCS-AOCS ジョイントミーティング J M2007

第 6 回 J M2007 は、2007 年 5 月 13 日-16 日にカナダケベック市で、JOCS、AOCS および ISF の三者による合同開催となった。日本側の実行委員会は高橋是太郎実行委員長(北海道大学)のもとに組織され、分析分野をはじめとした 8 分野(セッション)についてシンポジウムの準備が進められ、ジョイントセッションのみでも 80 余件の講演申し込みを得ている。また、日本の油化学関連工業の PR を目的に「日本パピリオン」の併催を計画したが、展示物を出展する法人が 14、協賛のみの法人が 8、計 22 法人の協賛が得られた。